

1 建学の精神

英才教育の徹底
道徳教育の徹底
錬身教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進
個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成
質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

2 校訓

「学んで厭かず、教えて倦まず」

3 ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

4 ビジョン（使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像）

- ① 進学校として特色ある教育活動（医進・特進・国際・探究活動等）が広く認知され、安定した入学者が確保されている。特色ある進学校
- ② すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた城北生としてのプライドが育っている。プライド・リーダーシップ
- ③ 社会の多様性を理解し、平和で持続可能な社会の実現に向けて自発的に取り組む生徒が育っている。持続可能性・異文化理解
- ④ 「6年制」「3年制」それぞれが強みを発揮し、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導が成果を挙げている。系統的・計画的指導
- ⑤ 「習得・活用・探究」のサイクルを意図した指導の下、「主体的・対話的で深い学び」が実現されている。探究的学び

5 今年度の教育目標

- ① 特色ある教育活動を展開するとともに、組織的・積極的に広く周知を図り、安定した入学者を確保する。特色ある進学校
- ② 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。プライド・リーダーシップ
- ③ 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、平和で持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。持続可能性・異文化理解
- ④ 「6年制」「3年制」それぞれの強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を構築する。系統的・計画的指導
- ⑤ 医進コース・特進クラス及び新しい探究活動等のために、時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。探究的学び

6 教育目標・活動策定に係る環境分析

(1) 本校を取り巻く状況と課題

内部環境	外部環境
強み (S) ① 学校行事に積極的に参加する生徒が多い。 ② 学業と部活動の両立を図り、未来を切り開く生徒が多い。 ③ 生徒の持つ学力を細かく分析し指導することで、多くの生徒の学力が伸びる可能性を秘めている。 ④ 外国人教師が5名おり、英語教育をはじめ国際理解教育を推進している。 ⑤ 海外研修プログラムが充実している。 ⑥ 教育施設が充実している。 ⑦ 休校時にICTを使ったオンラインの指導を行う体制が整っている。 ⑧ 推薦入試を中心に高等学校の志願者が増加しつつある。	機会 (O) ① 私立中高一貫の男子校として一定の評価がある。 ② 「面倒見の良い学校」として評価がある。 ③ ICT機器を活用した授業実践に、校外から関心を持たれている。 ④ PTA・同窓会などが協力的である。 ⑤ 連携に協力的な大学・企業がある。 ⑥ 英語運用能力への関心が高まっている。 ⑦ 大学入試の変化により探究活動を評価する機運がある。 ⑨ 医学科進学コースの取組をさらにアピールできる。 ⑩ 生徒数増加が見込まれる地域が近隣にある。
弱み (W) ① 中高一貫教育の強みをさらに発揮する必要がある。 ② 学習習慣の定着が課題となる生徒がいる。 ③ 中学校の志願者が減少傾向にあり、歩留まり率が低い。 ④ 組織的・計画的な教科教育力の向上に向けた取り組みがさらに必要である。 ⑤ 強みの海外研修がコロナ禍で十分実施できない。 ⑥ 進学先として広く訴求する効果的な広報をさらに進める必要がある。	脅威 (T) ① 少子化による受験人口の減少 ② 近隣の学校の共学化や特色ある取組により生徒の志望動向に大きな変化がみられる。 ③ 特定の公立学校の人気の高さ ④ 広島市内中学での高校入試における本校の認知度の伸び悩み ⑤ 校外での生徒のマナーについて指摘を受けることがある。 ⑥ 新型コロナウイルス感染拡大により、休校措置や行事の中止等への懸念が払しょくされていない。 ⑦ 立地条件が悪く通学に抵抗感を持たれる傾向がある。 進学先として市内中心部への指向は根強い。

7 目標

1 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当
		3年	4年度	5年度	6年度	
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	進路実現とその他の学習において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+B の割合	50.7%	60%	70%	75%	総務 学年会
	部活・習い事など校内外の自主的な活動において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+B の割合	49.0%	60%	70%	75%	
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	校内外において自発的に貢献する行動がとれたか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+B の割合	65.9%	70%	70%	75%	
「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓の精神を実践する生徒を育てる	・数値目標は設定せず。					

2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。

達成目標		評価指標		実績値	目標値			担当
				3年度	4年度	5年度	6年度	
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションが図れる生徒を育む。	生徒の興味を示す数値	海外短期研修の応募者数	オーストラリア	—	中止	20 人	30 人	国際部 (英語科)
			イギリス	—	中止	20 人	30 人	
			韓国	—	中止	15 人	20 人	
			インドネシア	—	中止	30 人	30 人	
		Year 留学・Term 留学		—	—	2 人	2 人	
		受入プログラムのホストファミリー		—	中止	50 家庭	100 家庭	
		中学インターナショナルフレンドシップキャンプ		—	20 人	40 人	40 人	
		高1 一泊二日 Intensive English Camp (集中講義)			10 人	20 人	20 人	
		外部のイベント (スピーチコンテスト等)		28 人	—	50 人	50 人	
		インターナショナルクラブ加入者数 (短期研修参加者含む)		10 人	10 人	50 人	50 人	
		韓国語講座参加者数		19 人	25 人	25 人	25 人	
		NEWSLETTER 編集に関わる生徒数		13 人	15 人	20 人	20 人	
		提携校オンラインサミット (検討中)		—	20 人	30 人	30 人	
		英語検定の受験を促進	高2 英検2級合格数	14 人	50 人	50 人	50 人	
			中3 英検3級合格数	85 人	120 人	120 人	120 人	
			中2 英検4級合格数	105 人	140 人	140 人	140 人	
	上記に加えて国際部の活動を示す数値	ゲストスピーカー講演会	中2Discovery	—	—	5回	5回	
			中2・3全学年	—	—	各学年1回	各学年1回	
		国際関係LHR(中1・1回, 中2・2回, 中3・1回)		—	—	4回	4回	
		NEWSLETTER(情報雑誌)発行		2回	2回	3回	3回	
		PTA新聞に掲載する国際部関連記事		1記事	1記事	5記事	5記事	

		デジタルサイネージコンテンツの更新		毎週	毎週	毎週	毎週	
		危機管理研修会の実施		1回	—	1回	—	
		広島インターナショナルスクールとの交流		—	—	1回	2回	
		来訪の海外生徒 との交流行事	中2Discoveryの授業	—	—	各プログラム 2時間	各プログラム 2時間	
			全校歓迎集会	—	—	各プログラム 1回	各プログラム 1回	
			体育祭・文化祭	—	—	体育祭と 文化祭	文化祭	

3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。								
達成目標	評価指標			実績値	目標値			担当
				3年度	4年度	5年度	6年度	
① 基本的生活習慣を確立する	目標の性質上数値による評価指標は設定しない							生徒部
② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する 学校づくりを目指す。	地域のボランティア活動への参加			4	4	5	6	生徒部
	登下校時マナーアップへの呼びかけ			4	5	6	6	
③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛 される学校となるべく、生徒会が中心 となり城北モラルを向上させる。	先進的な他校生徒会執行部との交流			3	4	5	6	
	中高合同で行う校内行事の検討			3	3	3	3	
	高校生による中学生への意識啓発活動			2	3	3	3	
④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が 高まっている。	生徒の授業満足度			84%	80%	80%	80%	教務部
	シラバス作成の進捗管理			90%	100%	100%	100%	
⑤ 年間授業時数が確保できている。	年間授業時数(1単位当たり)			35時間	35時間	35時間	35時間	
⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的 に自己実現を図る生徒を育成する。	家庭学習時間(トータルとして)	中1	平日	3.0時間	2.0時間	2.0時間	2.0時間	教務部
			休日	3.3時間	3.0時間	3.0時間	3.0時間	
		中2	平日	2.2時間	2.0時間	2.0時間	2.0時間	

			休日	3.3時間	3.0時間	3.0時間	3.0時間	
		中3	平日	1.8時間	2.0時間	2.0時間	2.0時間	
			休日	2.1時間	3.0時間	3.0時間	3.0時間	
		高1	平日	1.6時間	2.5時間	3.0時間	3.0時間	
			休日	2.7時間	3.5時間	3.5時間	3.5時間	
		高2	平日	3.0時間	3.0時間	3.0時間	3.0時間	
			休日	4.2時間	4.0時間	4.0時間	4.0時間	
		高3	平日	5.5時間	5.0時間	5.0時間	5.0時間	
休日	6.8時間		7.0時間	7.0時間	7.0時間			
② 模試目標偏差値を達成する。	全統模試第3回(高1・11月) *昨年実施せず。	偏差値70以上	1人	5人	7人	10人	進路指導部	
		偏差値60以上	14人	25人	30人	35人		
	進研模試11月(高2・11月)	偏差値70以上	7人	15人	20人	20人		
		偏差値60以上	44人	55人	60人	70人		
③ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、 早慶上理30名、関関同立100名以上 が合格する。	大学合格者数	旧帝大クラス	8人	10人	10人	10人		
		広大	12人	18人	20人	20人		
		早慶上理	20人	25人	30人	30人		
		関関同立	84人	100人	100人	100人		

4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当
		3年度	4年度	5年度	6年度	
① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の活用を含めた特色ある授業実践に取り組む。	「授業改善シート」の提出	60%	100%	100%	100%	教務部
② 新学習指導要領に対応した教育課程の実施について評価・改善を行う。						

③ 城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	受験者層への興味・関心の喚起	6年制コース	受験者数 644人 (入学者178)	受験者数 650人	受験者数 670人	受験者数 690人	入試広報部
		3年制コース	受験者数 158人 (入学者84)	受験者数 190人	受験者数 210人	受験者数 230人	
④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。		医進コース	受験26人 入学者8人	入学者20人	入学者20人	入学者20人	医進コース
		FLIP	SDGs11人 プログラミング6人	SDGs20人 プログラミング10人	SDGs20人 プログラミング10人	SDGs20人 プログラミング10人	FLIP等担当者
⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。	数値による評価指標は設定しない						総務部

8 目標達成のための手立て（「戦略」）

1 本校のあらゆる教育活動を通じて、志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	・ 7月に高い目標をについて説明し、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。	・ 4月に高い目標を設定させ、中間評価時点、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDで自己評価する。 ・ 各分掌・教科・学年で自主的活動に関連した活動を案内し参加を促す。	総務 学年会
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	・ 7月に校内・校外での貢献活動について説明をし、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。	・ 4月に校内・校外での貢献活動について説明をし、中間評価時点、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDで自己評価する。 ・ 各分掌・教科・学年で関係した貢献活動の参加を紹介し参加を促す。	
「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓の精神を実践する生徒を育てる	・「学んで厭かず、教えて倦まず」を折に触れて繰り返し説く。生徒に書かせ唱えさせる。		

2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションがはかれる生徒を育む。	COV I D19の影響により、海外短期研修及び受け入れプログラムを中止した。代替案を導入する。	代替案を安定して実施する。代替案で改善できること、将来に向けて継続できることを検討する。	国際部
	COV I D19の現状を鑑み、令和5年度の研修プログラム再開に向けて、交流先の状況や外務省のガイドラ	コロナ後の海外研修を模索しながら、交流が途切れなように形を変えながら実施する。生徒の安全や保護	国際部

	インなどの情報を集める。事前学習などの準備を進める。校務運営会議と国際部で危機管理研修を実施する。	者の同意を担保するために必要な変更点があれば考慮に入れ、実行する	
	令和5年度の研修プログラムを計画する段階で、改善点を考え実施する。	研修プログラムを改善し実施する。	国際部
	管理職、部署、生徒レベルで姉妹校と強い連携を保つ。校長から各姉妹校へ直接手紙を送る。城北の国際部と姉妹校の国際部との連携を密にする。城北と姉妹校間でカリキュラムの連携を図る。	姉妹校との連携を組織的に安定して実施する。	国際部
	オーストラリア（ブリスベン）の学校と新しく連携する。	相手校との交渉を連携しつつ、初期計画をさらに充実させる。	国際部
	英語科と連携して英検の受験を促進する。ニュースレターとデジタルサイネージによる周知を促進する。	英検受験の定例化と、英語科や DISCOVERY 等との連携を安定して実施する。	国際部 英語科
	地域社会や城北に入学を考えている小学生や中学生に対して、より効果的に城北の国際活動を宣伝する。入試広報部と連携を取る。ホームページにプログラムの情報を公開する。メディアに紹介してもらう。	情宣活動を入試広報部と組織的・計画的に連携して実施する。	国際部
	国際ニューズレターの内容や配信を改善し、電子と紙媒体で生徒に配布する。生徒に令和4年度予定の国内研修プログラムおよびそれ以降の海外プログラムに興味を持たせ続ける。	海外および国内研修の質を高め、内容を充実させる。交流外国人生徒の受け入れ先を安定して確保する取り組みを定着させる。	国際部
	4年度海外研修・国際部のグランドデザインを作成する。関係する教員と連携をとり、草案を校長に提出する。	グランドデザインの検証と改善を組織的・計画的に行う。	国際部

3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
① 基本的な生活習慣を確立する	個人面談やLHRなどを通じて望ましい生活習慣の確立を図る。	起床時間、帰宅時間、学習開始時間の定着度を検証し、次年度に向けての課題解決の手立てを検討する。	学年会
	校舎内での右側通行を徹底するとともに三密にならない配慮も含め授業や登下校時のマナー意識を育てる。	城北健男児として自覚を持ち、プライドを持った学校生活を送れる手立てを構築する。	生徒部
	LHR・道徳・個人面談・三者懇談等で相談体制を確立する。	生活や進路にかかわる対話の機会を恒常的に確保する。年3回の三者懇談会を統一して行う。	学年会
	様々な課題を抱える生徒の支援について学年会とカウンセラーとのミーティングを学期毎に実施する。	校内相談体制の整備及び、課題を抱える生徒の状況を早い段階で共有するシステムづくりを行う。	総務部 学年会
② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。	帰属意識を高める行事を具体化する。 中高合同体育祭を実施する。	帰属意識を高めるために実行した行事を検証する。 学校行事への保護者及び教職員の参加について、PTAとも連携し、課題の検証を行う。	生徒部 総務部
③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。	中学生、高校生が協力して地域に貢献できるボランティア活動を実施する。	生徒を主体とした学校行事の検証を行い、地域に愛される学校になるための検討を重ねる。	
④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。	中学、高校の新課程の実施に伴い、6年間を見据えた学習意欲を高める授業計画を作成・実施する。	新学習指導要領に基づき、学習意欲の向上につながる授業計画を実施・改善する。	教務部
⑤ 年間授業時数が確保できている。	授業時間確保のため、定期的にチェックし曜日による偏りがないようにする。	長期休業中の補習に頼ることなく授業計画通りに授業を進めるための手立てを検討する。	
⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	放課後の学習時間の確保、学習場所の整備等に関する具体的な方策を構築する。	生徒が主体的な学習をすすめるよう ICT 機器を活用する学習環境や、自習室の整備等を行う。	教務部 生徒部 総務部

	家庭学習時間の記録を生徒の学習に関する指導助言に活用する。	生徒の自己実現を念頭に主体的学習を促し、自己の最適な教科バランスに基づいた家庭学習を計画的に行う支援をする。	進路指導部 学年会
⑦ 模試目標偏差値を達成する	中学1年次から大学を意識させる進路指導を行う。早期の段階から難関大学に憧れを抱くような進路	組織的・計画的な進路指導が生徒の主体的な学びと進路選択を支援できている。	
⑧ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	LHRを計画し、成績上位層の人数を増やす取り組みとして、学習時間の確保を図る学習計画の立案・指導、希望補習や模試の事前・事後指導を実施する。個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。	保護者対象の講演会等を計画的・継続的に設定し、「行きたい大学に行く」ことへの協力と理解を求める。既卒生に対しては、旧担任等を中心に、継続的な激励を行い、進路が確定するまで支援する。	

4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	生徒の学びを深化させるためのICT機器の活用手法について学ぶ研修会を実施する。	新たな手法による授業の効果について、検証を行う。	教務部
	授業観察、アンケートなど授業改善を組織的・計画的に行う。	探究的な学習を取り入れる等、授業改善のための研修を継続的にを行い、効果検証を行う。	
	ICT機器によるさまざまなデータの蓄積を促し、学習面・生活面からの生徒支援を推進する。	蓄積されたデータを分析することにより、本校の生徒の強み・弱みを把握し、今後の指導に資する。	
	広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。	公開授業研究会を定例化する。	
② 新学習指導要領に対応した教育課程を実施する。	全体の指導を通じて学力の3要素を育成する教育活動を実践する。	学力の3要素を育成するための、授業計画を作成し、定期的な振り返りを行い、課題の検討を行う。	
	総合的な探究の時間の学習評価の項目を検討する。	総合的な探究の時間のカリキュラムを検証し、定期的に改善を行う。	

③ 城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	ホームページの更新頻度を週5回以上とし、教育活動を校外に発信する制度を構築する。	魅力あるコンテンツとして最新の学校情報をアップすることでホームページへのアクセスを増やす。	総務部
	定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外に積極的に発信する。規模を限定した Saturday Open School を年間7回実施し、コロナ禍に対応した広報活動とする。	本校の教育活動が校外で話題として取り上げられるよう広報誌の発行を通して本校の認知度を向上させる。	入試広報部
④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。	新コースのカリキュラムを定着させ、その魅力を医進生徒の参加も含めて小学校をはじめ幅広く周知活動を行い、入学者増に繋げる。	医進コースとその教育内容が認知され、入学者数が安定するように、カリキュラムの改善を図り、広報活動を定着させる。	医進
	探究のカリキュラムを、総合的な学習の時間に位置付け実施する。FLIP など自主的な活動が定着するように校内広報を図る。	探究のカリキュラムが総合的な学習等に位置づいて機能するよう校内体制を確立する。	FLIP
⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。	校内での教育活動での指針を策定し全職員で共有し、実行する。	指針の内容を状況の変化に応じて改定改善し運用する。	総務部